科目名 Subject	色彩と造形 Color and Formative Art		教員名	栗本　佳典	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
実践的教育	×				
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	◎	△	△
科目の概要	美容をはじめデザインの現場から普段の生活の場まで、様々な状況で必要とされる色彩や造形の役割や表現方法について学びます。 色彩では、色の分類から配色、カラーイメージなどについて学習内容の解説を行った後、実際にカラーチップやポスターカラーを使って演習を行い課題を提出します。 造形では、さまざまなモチーフのデッサンや立体物の課題を作成し提出します。				
授業の目標	演習などを通して色彩や造形の基礎をしっかりと身につけるとともに、色や形に対する認識力や発想力、イメージ力を養う。さらに、幅広い色彩感覚・造形感覚を身につけ、美容をはじめ、さまざまな場面で必要となる色や形に対する判断力や表現力を高めることができるようになる。 また、課題提出時に学生と教員で相互評価を行うことにより、自己を振り返り解説することができるようになる。				
時間外学習 （予習・復習）	月に一回程度、展覧会などを見に行き、作品における色彩や構造、画面構成を探ってください。また、ファッション雑誌や身の回りのデザインされたものなどを観察して、常に色や形を意識して感覚を磨いてください。（展覧会等所要時間は６時間程度を想定しております）				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	なし			
	使用設備・備品	デッサン室使用			
	参考文献	なし			
評価方法	提出課題の理解度および完成度８０％、授業態度２０％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
学生へのフィードバックの方法	個別に実地指導を行います。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と関連する資格	資格名	色彩検定（A.F.T）			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第１回	オリエンテーション	美容やデザインにおいて必要となる色彩や造形の意義を知り、授業に対する意識を高めることができる。	
第２回	色彩の基礎用語とカラーシステム	三属性や補色、カラーシステムなど、色彩の基礎用語について理解を深めることができる。	PCCSチャート使用
第３回	明度・彩度とトーン	明度、彩度から生まれるトーン分類の表示方法を理解することができる。	TONEチャート使用
第４回	色名	色名の成立について理解を深めるとともに、オリジナルの色名を考え発想力を高めることができる。	ポスターカラー使用
第５回	カラーウォッチングおよび色彩再現	様々な物の色を観察し作ることで、色作成の力を高めることができる。	ポスターカラー使用
第６回	配色技法	配色の効果や調和を利用できる力を身につける。	カラーカード使用
第７回	色彩とイメージワード	イメージ作りに必要となる、色の表現力を身につける。	色鉛筆使用
第８回	年齢による色認識と日本の色彩文化	年齢と色認識との関係、および日本文化における色の特徴を知り、使うことができる。	カラーカード使用
第９回	手のクロッキー	形の中にある構造を捉え描写する力を身につける。	
第１０回	マンガのヘアスタイル模写	さまざまなヘアスタイルをシンプルに表現する力を身につける。	
第１１回	雑誌の人物をデッサンする	人物の形やバランスを短時間で捉える力を養う。	
第１２回	石膏像クロッキー	人物の形やバランスを短時間で捉える力を養う。	デッサン室使用
第１３回	三面図と想定デッサン	異なる方向から客観的に立体物を捉え描写する力を養う。	
第１４回	平面・立体と回転図形	平面から立体物を作成する力を養うとともに、立体に対する想像力を高めることができる。	
第１５回	現代の表現と色彩構成	現代の表現を知り幅を広げる。また色彩構成を作成して表現力を高めるとともに解説する力を養う。	色鉛筆使用